

シャロームとわたし

第238回 教養講座「地元学を考える」

NPO法人シャローム 代表 大竹 静子
2024年2月17日



1 シャロームの誕生

(1) VG (ボランティアグループ) シャロームの活動開始

福島県福島市在住、76歳、NPO法人シャローム代表

活動の根底には、学生時代の教育実習での疑問が。

障がい者とは、教育とは、虐待とは…

人として受け入れられない現実。不条理な現実。

1979年結婚、人の親となる。

一人ではできないことも、仲間とならできることが2倍・3倍に！

障がい者支援のボランティアを開始。

1 シャロームの誕生

(2) ボランティアとして始めたもの
障がい者を社会が理解することで、障がいはなくなる。

障がい者との交流、理解を深める活動

- ・クリスマス会等でのコンサートの開催
- ・授産製品(障がい者施設で作られる製品)の販売支援
展示販売会を企画
ふくしま周辺施設に広く呼びかける
施設のみなさんが、自分の製品を売る機会を作る

2 障がいを持つ仲間と始めた活動

(1) 福祉研究会

私たちは「障害者」ではない。(当事者の叫び)
「障害者」を「障がい者」と書くことに。

(2) 「来てください！」の運動展開

障がい者に優しいまちづくりを目指す。

(3) 障がいを持つ仲間たちのコンサート

現在まで、「共に生きる仲間たちのコンサート」として継続。(27回終了)

(4) 障がい者コミュニティサロン「まちなか夢工房」



3 東日本大震災・原発事故 —被災地のNPOとして—

(1) 被災地のNPOとして

- ・被災者への支援
- ・支援団体の受け入れ支援

(2) シャロームとしての教訓整理

人は、支え合い、分かち合うことで生きている。……「共生原理」

人は、一人では生きられない。……………「共生社会」

「命」を守り合うことからすべては始まる。

(3) ひまわり感謝祭(13回終了)

支援に感謝し、福島の実況を伝える、地域間交流事業。

4 ひまわりプロジェクトの展開

(1) ひまわりの取り持つ優しさの連鎖

孤立は、人を孤独の闇で怯えさせ、

優しさの連鎖は、思いやりを育て、人々を喜びに導く。

ひまわりは、子どもから老人まで、すべての人々を取り込み役割と喜びを与える。

すべての人を取り残さない、孤立を生まない共生社会のシンボル事業

= ひまわりプロジェクト。



(2) 共生社会への取り組み

それぞれの地域での取り組みの連鎖が共生社会を作る。